

# レファレンスセンター一等報告

## 16\_HIV 関連

## エイズ発生動向委員会報告 (2011)

HIV感染者数、エイズ患者ともに増加傾向。

ARVによる治療法の確立 → 早期診断の重要性

## 1. 検査・相談機会の充実

保健所等における無料HIV検査数は2008年をピークに減少。

→ イベント等による啓発活動とともに、  
民間病院における検査、郵送検査等の活用が必要。



2011年12月現在、32の民間クリニックで即日検査が  
受けられるようになった。

郵送検査は、2008年以降も引き続き検査数が増加している。

## 2. 検査相談につなげるための働きかけ

ウェブサイト「HIV検査・相談マップ」の更新。

検査イベント情報の部分の刷新。

掲載自治体数が20県増えた。

「即日検査ガイドライン(第3版)」のアップ。

### 3. 検査技術の向上

一般的に普及しているリアルタイム PCR で HIV-1 ゲノム検出とコピー数測定が可能な方法「KK-TaqMan 法」の確立と、衛生研究所への普及。

感染研ホームページ上の「病原体検出マニュアル」の更新。  
(KK-TaqMan 法も記載。)

「HIV 検査法技術講習会」の実施。  
(本年度は、9月19日から21日まで開催予定。)

## 4. 日本におけるHIV-1流行株の現状

HIV/AIDS 症例の主体は  
「男性」、「日本人」、「MSM」、「サブタイプB」。

新規未治療者のおよそ10%に、いずれかの抗 HIV 薬に  
対する耐性変異が見出された。  
(耐性変異を持った HIV-1 株が流行株として定着しつつある?)